山梨県立ろう学校第１回学校運営協議会　協議結果等について

日時：令和８年４月２２日（水）　１４：００～１５：３０
場所：山梨県立ろう学校　文化交流会館　交流ホール

＜次第＞
１　開会の言葉
２　委員委嘱
３　学校長あいさつ
４　委員紹介（自己紹介）
５　運営等に関する要綱について
６　会長・副会長選出（互選）
７　会長・副会長あいさつ
８　議事　＜議長：副会長＞
（１）令和８年度学校運営基本方針について（校長）
（２）令和８年度学校評価について（教頭）
（３）その他
９　連絡事項
（１）令和８年度年間行事予定について（教務係）
（２）支援教育部の活動概要について（支援教育部）
（３）今後の予定　11 月 11 日（水）10：00～第２回 学校運営協議会
2 月 19 日（金）14：00～第３回 学校運営協議会
１０　意見・懇談
１１　閉会の言葉

＜会長・副会長選出について＞
・互選により今年度の会長を永田委員、副会長を雨宮委員に決定。

＜議事＞
（１）令和８年度学校運営基本方針について
〇学校より説明　→　承認
〇質問等
・働き改革について　ステラ候補者（ストレス状態が低く、周囲に良い影響を与えながら自らもいきいきと働くことができている理想的な人材）が全国平均を上回るとのことだが、残業時間が遅くなる要因を分かる範囲で教えてほ

しい。
→年度初めは、新クラスの準備、教材研究に時間を要する。校務分掌の変更も勤務時間に影響がある。夏休み明けは、新学期の準備や秋の文化祭（運動会）の取組がある。年度末はまとめの時期であり、評価などに時間がかかる。
→今年度、分掌の再編や人員の見直しを行った。今後、改善につながるか検証していく。
・在校等時間は把握しているということでよいか。
→把握している。
・ストレス、メンタルヘルス、対人関係など、教育現場で重要視されている体制づくりについてはどうか。
→管理職も協力してカウンセリングを実施。県のカウンセリング体制も拡大しており、電話相談なども可能である。希望者はメンタルヘルス研修会に参加できる。
・在校等時間については、朝、早く来た場合の時間も含まれているか。
→含まれている。

意見：なし

（２）令和８年度学校評価について
〇学校より令和７年度報告と令和８年度計画の説明あり。
質問、意見なし。令和８年度計画については了承された。

（３）その他
特になし

＜連絡事項＞
（１）令和８年度年間行事予定について（教務係）
・資料のとおり
・学校公開、笛吹祭、学校運営協議会を確認

（２）支援教育部の活動概要について（支援教育部）
・パワーポイント（写真入り）で資料の説明
（３）今後の予定

11 月 11 日（水）10：00～　第２回　学校運営協議会（給食試食を計画）
２月 19 日（金）14：00～　第３回　学校運営協議会

（４）個人番号の提供依頼について（事務）
学校より報酬について説明。今年度は県からの指導で旅費込みの報酬になる。

＜意見・懇談＞
・様々な福祉サービスがある。就労選択制度など、在学中から使える。
・情報センターには、聞こえないスタッフ２名（本校卒業生）がおり、すごい力を発揮している。子どもの学び方改革を進めてほしい。高等部の１名の生徒をたくましく育つようにしてほしい。情報センターにろう学校コーナーを作った。チラシ、学校要覧、お知らせ等掲示した。ゆっぴーの原型、作品も借りられたらと思う。ろう学校は町から遠いという部分もある。初めての相談を交通の便のよい情報センターではどうか。場所はいつでも提供する。
ST３名設置はすばらしい。だが、ろう学校の先生は言語のスペシャリスト。ST 任せにせず、先生たちの力を身につけていけるようにしてほしい。
・これから、学校のことをいっしょに考えていきたい。
・子供が大きくなって、先生方の表情から判断できるようになってきた。先生同士のいざこざも子どもたちには分かる。今までろう学校にいて先生たちのことを悪く言うことはなかった。学校、クラスの雰囲気は大事。今、少し気持ちが沈んでいる。一人一人の子どもに向き合ってほしい。３回の会議でいろいろ考えてほしい。
・山梨県で６月２５～２７日で関東ろう者体育大会がある。ろう者のスポーツしているところを見てほしい。きこえないこどもは見る力がある。一人一人の表情でいろいろなことを感じる。差別なく一人一人を見てほしい。
・全日制高校での勤務経験が長い。CS のような機会はありがたい。ろう学校は高い教育目標を掲げていると感じている。職員数が恵まれていると思う。子供たちの成長に期待する。
・卒業生でこの辺に住んでいる方もいる。教育の内容は年代で違うと感じた。先生たちは熱意がある。自分の専門分野には自信をもって指導に当たってほしい。
・情報センターとのつながりがよい。ろう学校コーナーがあるとつながりを感じる。人をつくるのは、失敗したことや経験したこと。今は、生成 AI のようなものがあるが、原点に返ることも大事。ろう学校の課題を解決するには、学校側が受け止めて考えて応えていかなければならない。学校が発展するために、先生がたにはいろいろ考えてほしい。
・反省すべき点もみつかった。これからもご指導をお願いしたい。